

平成26年12月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

◎ 個人質問

6番 三宅文雄

1. 災害時におけるライフラインの確保について

近年、地震や台風、異常気象に伴う集中豪雨や竜巻などの自然災害が頻発しています。いつ起こるかもしれないこれら自然災害に備えて、ライフラインの確保は万全であるにこしたことはないと考えます。本市における現状と今後の課題について伺います。

①停電時の対応について

②飲料水の確保について

③下水処理施設の稼働について

④公共交通網の確保について

2. 地域ブランドの推進について

六次産業化・地産地消法の施行に伴い、各地で地域ブランドへの取り組みが盛んに行われている。地域の活性化にも結びつくと同時に、地域の知名度の上昇にもつながり、また雇用も期待できる。地域ブランドの育成、支援のありかたについて、本市としての考えを伺います。

①協働のまちづくりとの関係について

②補助金を含む支援制度について

7番 坊野 公 治

1. 人口減少対策について

- 1) 現在支給している児童手当に追加して、第三子以降の子供に対し井原市独自の施策を行われてはどうか伺う。
- 2) 現在、各種団体が行っている婚活をバックアップする専属の課を作られてはどうか伺う。

4番 柳 井 一 徳

1. 今後の天神峡および周辺の施設整備について

- ①天神峡トンネル開通後の県道芳井油木線の旧道の昼夜の防犯対策および道路整備について伺う。
- ②天神峡および中村川公園の駐車場整備について伺う。
- ③天神峡の諸施設の有効利用について伺う。

3番 荒 木 謙 二

1. 「イバラノミクス」について

強力に地場企業を応援し、地域経済の活性化を図ることを目的とした経済・雇用対策事業を実施しておられます。平成25年度に8本の矢を、本年度には新たに8本の矢を追加し、「イバラノミクス」と銘打って16本の矢を放たれていますが、「イバラノミクス」16本の矢の全体の実績並びに成果について伺います。

2. いばらぐらし住宅新築補助金・住宅リフォーム補助金について

①定住促進、地域経済の活性化を目的に、平成24年から施行された「いばらぐらし住宅新築補助金」の現在までの実績並びに成果、また、昨年度と本年度の補助金交付実績の比較について伺います。

②「住宅リフォーム補助金」の本年度の実績について伺います。

10番 簗戸利昭

1. 地域おこし協力隊について

地域おこし協力隊の調査、研究はどの程度進んだのか伺う。

2. 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律の一部を改正する法律について

1) 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護法）の一部を改正する法律の内容を伺う。

2) 来年度以降、この法律により有害鳥獣対策にどのような影響が出るのか伺う。

13番 大滝文則

1. 井原市の振興政策について

1) 経済雇用対策「イバラノミクス」の検証について

昨年度、安倍政権の「3本の矢」をもとに、井原市では「8本の矢」と名付けて8つの事業を掲げられました。今年度は、8本の矢を追加し「16本の矢」として「アベノミクス」をなぞって「イバラノミクス」と命名し、地域経済活性化事業を展開されています。

そこで2点について伺います。

①「イバラノミクス」16本の矢のそれぞれの取り組みについての検証は、どのように行われているのか。

②検証結果やその評価をもとに、来年度以降どのような展開を計画されているのか。

2) まち・ひと・しごと創生法について

新聞、ネット等の情報によると、11月21日に成立した「まち・ひと・しごと創生法」は、都道府県と市町村に地方版の総合戦略を作る努力義務を課し、地方創生に取り組む自治体を支援するための、情報支援・人的支援・財政支援などの用意をするとのこと。背景には、本議会でもたびたび取り上げられた「日本創成会議」分科会から「2040年には、地方の若者が大きく減少し、地域の保全さえ危うくなるため、消滅の可能性がある自治体が続出する」との報告が示され、一気に議論が高まったことによるものと考えられます。

そこで3点について伺います。

①この法案について、井原市ではどのような情報収集体制を取られているのか。

②これまでに、どのような情報が得られているのか。

③現在までの情報をもとに、来年度へ向けて井原市ではどのような取り組みを考えられているのか。

2番 河合謙治

1. 井原市第6次行政改革大綱・集中改革プランについて

①「将来にわたって安定的な行政運営を行うため、管理型から経営型へ、量的から質的への行政運営の転換をよりいっそう進展させる」とありますが、新規にどのような改革を掲げられたのか伺う。

②「市民サービスの維持向上を図るだけでなく、健全なかたちで次代を担う子供たちへ引き継ぐため、生産年齢人口の減少による税収の減額や社会保障支出の増大、平成27年度から始まる普通交付税の合併算定替の特例期間の終

了による交付税額の段階的削減等に対応するため、効率的・効果的な行政運営を目指す」とありますが、具体的にどれくらいの効率・効果の数値を目指したもののなのか伺う。

③団体運営補助金と事業補助金の見直しについてどのように検討されたのか伺う。

20番 森本典夫

1. 公共施設のバリアフリー化について

平成25年に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が成立し、平成28年から施行されます。

この法律が施行されると差別解消の推進は待たなしになると思います。法律によりますと、様々な差別の解消がありますが、今回はバリアフリーの一点についてのみお尋ねします。市としてこの法律の目的を先取りし、現在バリアフリー化されていない公共施設のすべてを出来るだけ早くバリアフリー化することを考えるべきではないでしょうか。

2. 自動体外式除細動器（AED）をすべての公共施設に設置することについて

現在、自動体外式除細動器（AED）は多くの公共施設や市内の各種事業所などに設置されているようです。このAEDにより緊急時にできるだけ早く処置したことで、尊い命が救われたというケースがあります。

そこで、心臓発作などの緊急時に、近くの公共施設にAEDがあったため一命を取り留めたというような「安心の環境づくり」のため、AEDを市内のすべての公共施設に設置してはどうでしょうか。

3. 美星地域に新たな市営墓地を造成することについて

現在、美星地域には市が経営する「美星墓苑」がありますが、全く空きがない状況です。美星地域の方で墓地を求めたいという方がおられます。この声に応え、市営墓地を新設してはどうでしょうか。

4. 市が避難施設に指定している建物の耐震診断の実施について

災害等発生時、生命などの危険や大きな災害を受ける恐れがあると思われるとき避難所や避難施設に避難します。

災害の被害を回避するため逃げ込む避難施設は、本当に安全で身が守られる保障がある施設かどうかを心配することがない施設でなくてはなりません。

市民の皆さんに避難施設が安全な施設であることが確約できるようにするため、耐震診断が必要な施設を早急に診断してはどうでしょうか。

5. 老朽水道管の布設がえ計画について

破裂事故が発生する前に、布設がえの必要な老朽水道管を計画的に布設がえしなければなりません。

思い切った予算をつけ、布設がえする必要があると思います。布設がえの基本的な考え方と布設がえ計画をどのように立てておられますか、具体的にお聞かせください。

6. 市民病院の救急車受け入れの基本的考えと急患の受付時間が厳密すぎることに ついて

市民から深刻な悩みが耳に届きます。

救急車の搬送先がなかなか決まらず、医療機関に搬入が遅れたことによって生命の危険が増すことがあります。

市民病院では救急車の搬入について、基本的にはどういう考えで対応されているのでしょうか。

また、平生から市民病院にかかっている患者さんが、急に体調が悪くなり受診の電話連絡を入れると、受付時間を数分過ぎているだけで「ダメです」と断られるケースがあります。融通が利かず厳密すぎるのではという声を聞きます。こういう対応を改善すべきだと考えますがどうでしょうか。

7. 住宅リフォーム補助制度の延長について

平成23年度に「住宅リフォーム補助制度」が創設され現在を迎えています。毎年度補助制度の効果（成果）は非常に出ており、リフォームを考える市民や地元の関係業者は引き続きの実施を望んでいます。

地域活性化のためこの制度の創設を提言した私としましても、引き続きの実施を切望します。

ぜひ来年度も継続していただきたいと考えますが、そういうお考えはおありでしょうか。

8. 岩倉町宮ノ端交差点以西の県道上稲木東江原線の歩道整備について

私は、平成25年6月の一般質問で岩倉町宮ノ端交差点以西の県道上稲木東江原線の歩道整備について質問いたしました。

市長は、「この区間には歩道がなく、大型車を含め交通量も多く危険であることから、道路管理者である岡山県に対し、早期に整備を行うよう強く要望しているところでありまして、今後も引き続き要望してまいりたいと考えております」とお答えになりました。

最近、特に地域の方から早く歩道をつけてほしいという声を聞きます。その後、この案件はどのようになっていますか。

16番 佐藤 豊

1. 高梁川流域自治体連携モデル事業について

高梁川流域圏の総合力をもって、人口減少・少子高齢化社会への対応を図るため、圏域の特性を生かした魅力づくりを進めるとともに、まちづくりにかかる課題解決に共同で取り組み、また、圏域全体の発展を目指していくことを目的とする高梁川流域自治体連携モデル事業が、倉敷市を中心に平成26年度よりスタートしています。その事業に対する本市の関わりと経過について、また、今後の地域連携事業に対する本市の姿勢について伺います。

2. 鳥取・岡山アンテナショップについて

本年9月28日に、東京都港区新橋に鳥取県と岡山県との共同のアンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」がオープンしました。本市においても特産品の展示、観光地の紹介、また、地元企業等の首都圏における販路拡大のための活動拠点としての利用も可能であり、さらに、文化芸術の発信、移住情報等の提供

の場としての活用も可能であります。本市としても積極的な関わりで、郷土発信の拠点としての積極的な活用をしてはと考えますが、今後の利用計画について伺います。

3. リフレッシュ公園に健康・介護予防遊具の設置について

四季が丘のグランドゴルフ場は、連日多くの市内外の愛好家が、健康増進とリフレッシュの場として利用されています。また、リフレッシュ公園「静のゾーン」にも好天の日や休日には、多くの子供連れの家族が来園し、憩いの時間を過ごされています。中にはお孫さんを連れて中高年の方々も来られています。そうした際に、健康・介護予防遊具を公園内に設置して利用していただければ、公園の名のおりリフレッシュと健康増進の一助につながると思いますが、遊具の設置についての考えを伺います。

4. 青少年健全育成や地域貢献に対する本市の顕彰状況について

地域ボランティアや各種団体による地域貢献に対する市としての顕彰を含めた対応について伺います。現在、青少年健全育成に対する貢献に対して、推薦により個人・団体に感謝状の贈呈が一定の条件の下で行われているとお聞きしますが、この条件を簡素にして、一人でも多くの方々を対象とすることで、地域ボランティアの拡大と協働のまちづくりの醸成につながると思いますが、そうした変更はできないか伺います。また、ここ数年の感謝状等の授与件数と受賞項目について伺います。

11番 西田久志

1. 井原市における買い物弱者対策について

近年、市内への大規模店舗の進出が多く、安くていろいろな品ぞろえがあり便利さが増す反面、小規模店舗にとっては脅威になると思う。その中で廃業を余儀なくされる店舗もあるのではないかと考える。高齢者にとって自宅の近くにあり交通手段を使わなくても行ける店は大変便利な存在であるが、それがなくなるとどうしても遠くの店に行かなければならず、大きな負担になると思われる。

そこで、ネット社会である現在、地域でインターネットを利用して店舗から消費者に直接配達をしてもらい、また、安否確認も同時にできるシステムを構築したらどうか伺う。

5番 惣 台 己 吉

1. 道路の橋梁やトンネル等の長寿命化対策について

①道路法の改正の具体的内容について伺う。

②法改正の影響を受ける橋梁やトンネルの数は、井原市内にどのくらいあるのか伺う。

③今後、どのような方法で対象となる橋梁等の点検を行うのか、また、点検にかかる費用はどのようにお考えか伺う。

2. 市民への情報伝達の多様化・迅速化について

①現在の情報発信について伺う。

②今後の対策について伺う。

8番 藤 原 浩 司

1. 不法投棄対策等、及び電気自動車充電施設の進捗について

①今年度の不法投棄の状況と対策について伺う。

②ボランティアの不法投棄撤去事業についての考えを伺う。

③本年3月、井原市再生可能エネルギー推進ビジョン策定において6月定例会でクリーンエネルギー自動車の普及促進のためのインフラ整備として電気

自動車の急速充電施設整備を計画され予算取りもされましたが、進捗状況を伺う。

2. 災害対策等、全般について

世界中でも、わが国でも異常気象や自然災害が目立っています。最近10年間で見ると、わが国では恐怖を感じる毎時100mm以上の集中豪雨が2.3倍に増え、竜巻も目立っています。地震も相次いでいますが、切迫性が指摘されていない地域での大規模地震、集中豪雨が目立っています。そうした中、異常気象、地震による災害時の本市としての基本的な対応全般について伺う。また、災害によって不幸にも命を落とされた身元不明者の身元判明の手立てについて本市の考えを伺う。